

第54回栗東市人権教育研究大会 分科会一覽

※今回大会は、分科会会場が、市内3小・中学校と分散しております。参加される分科会の会場をご確認のうえ、直接各会場へお越しください。なお、必ず、上履きと下靴入れをご持参くださいますようお願いいたします。

分科会 番号	会場	研究課題	テーマ	所属・報告者(敬称略)	司会(敬称略)	討議協力者(敬称略)	記録者(敬称略)	分科会の主な内容
1	3年1組 教室	(4)－②	本当の思いは何だろう？ 子どもや保護者との関わりを通して	金勝こども園 田中 玲子	治田西幼稚園 小林裕美	葉山東幼稚園 斎木真奈美	金勝こども園 浦野 有砂	子どもが安心して過ごし、自分の思いや姿をありのままに出せるように、子どもの背景を捉えながら思いを読み取り、保護者と一緒に子どもを守り、育てていくための関わりについて考えていきます。
2	第2 会議室	(4)－②	互いに認め合う心を育む「共生」の学習	金勝小学校 宮田 素子	滋文教果東研究会 四方 晶子	葉山小学校 松濱 秀幸	金勝小学校 山崎 誠	特別支援学級担任として、「共生」をテーマにした学習に全校で取り組みました。人権学習と、それを支える職員研修についての取組を報告します。
3	音楽室	(4)－③	互いを認め、尊重し合う学級づくり ～つながり合い、自尊感情を高める実践を通して～	治田小学校 奥野 仁喬	治田東小学校 川田 一郎	金勝小学校 中川 章子	治田小学校 稲葉 美季	昨年度の学級には、人懐っこく、自分の気持ちに対して素直な児童が多かったです。しかし、自分の思いを優先しすぎるがあまりに、他人を傷つけてしまうことや、相手のことを考えていない発言がありました。以上のことから、「児童発信で考えた学級目標」「学級通信」「係活動」「しあわせがカガカミッション」「授業内での話し合い活動」といった互いを認め、尊重し合えるような実践を行いました。実践による児童の変化や成長について報告します。
4	専科教室	(4)－③	子ども同士のつながりを育む学級づくり	治田東小学校 北中 伸昂	葉山東小学校 立宅 麻奈美	大宝小学校 坂東 靖記	治田東小学校 北川 純子	子どもたちが学校生活を送る中で大切なことは、「楽しい学級」「安心して過ごすことができる学級」であると考えています。この2つを感じることができるよう取組について、また、その取組における児童の姿や自分の思いについて報告します。
5	外国語 教室	(4)－③	Aさんと別れるまでに ～卒業後、その先へ～	栗東中学校 明石 勇気	栗東西中学校 知行	葉山中学校 山本 克己	栗東中学校 石田 拓也	他人との距離感を上手につかめず、問題行動をくり返してしまふAさん。教室にもなじみず、家庭に対する不安感から居場所を求めて苦しむAさんとの関わりを通して見えてきた義務教育の終わりに至ること。
6	3年2組 教室	(4)－③	学校に登校しづらい聴覚障害生徒の寄宿舎での 内面の変化	滋賀県立聾話学校 藤方 唯 山村 雅樹	国際情報高等学校 後藤 龍一	栗東高等学校 奥村 俊文	滋賀県立聾話学校 寺田 慧	登校しづかった高校生が寄宿舎を利用するようになり、初めての寄宿舎生活の中で、私たちがどう彼の内面に迫り、どう変わってきたのかをまとめました。
7	2年2組 教室	(4)－③	本当の願いが知りたくて ～A児の願いとみんなの願い～	葉山幼稚園 伴 広大	金勝こども園 里内美月	大宝こども園 馬杉美鈴	葉山幼稚園 稲本 珠実	子ども達一人ひとりの姿を多面的に捉えることで、見えてくる背景や子どもの願いをもとに、子ども達の変化に迫りながら友達との関係作りやクラス保育の在り方について深めたいと思います。
8	2年3組 教室	(4)－①	「わたしもみんなと同じがいい!」 ～外国籍児童との関わりから気づいた、「支援」の在り方～	葉山小学校 穴見 拓海	大宝東小学校 海下 えり子	大宝西小学校 石田 智香子	葉山小学校 太田 賢志	昨年度に担任した外国籍の児童との関わりを通して、すべての児童に当てはまる「支援」の在り方について気づきを得ることができました。実践を通して感じた、支援を進めることの難しさや、児童の「みんなと一緒に学びたい」という思いをどのように実現できたのかについて報告します。
9	1年2組 教室	(4)－②	みんなで作る教室、みんなが分かる授業 ～32人の挑戦!～	葉山東小学校 木村 昂佑	滋文教果東研究会 森 紀人	治田東小学校 横井 久美香	葉山東小学校 加納 恭子	ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりや教室づくりを1年間取り組んできました。32人の成長からの学びを報告します。
10	1年3組 教室	(4)－②	言ったところで変わらんやん	葉山中学校 橋本 啓史	学校教育課 山本 致子	栗東西中学校 松浦 透	葉山中学校 石田 凌弥	私は教員になるまで差別はダメだと考えていながら、部落差別については「癪たを起こすな」の考えをもっていました。さまざまな研修や指導案検討を通して、私が気づいたことや私自身が変化してきたことを整理してみました。
11	少人数 教室	(2)－②	自分の居場所をみつけるお手伝い	社会福祉法人 栗東市社会福祉協議会 中沢 有紀	(株)滋賀銀行 栗東支店 菅居 しぶき	西日本高速道路(株) 関西支社 滋賀高速道路事務所 児島 秀和	商工観光労政課 相井 絵美子	ひきこもり支援にかか事業で、家族から相談のあったAさんが、社会福祉協議会での軽作業を経て、中学生のべんきょう会のサポーターとして子どもたちと関わるなかでみられた変化などについてご報告します。
12	多目的 教室	(4)－③	親子ともに安心できる「特性に合った環境」作り ～栗東市発達支援システム～	発達支援課 梅景 政子	栗東中学校 橋本 健	栗東中学校 住吉 由加	発達支援課 松井 宏樹	栗東市発達支援課は、発達に支援を要する人や家族に対して、関係機関と連携しながら、ライフステージに応じた一貫した切れ目のない支援を実施しています。家族への子育て支援や、本人への自立に向けた支援についてご紹介しします。
13	5年1組 教室	(4)－③	子ども同士のつながりを大切にしたい保育 ～Aさんと向き合ってきた実践を通して、今～	治田保育園 稲田 早紀	葉山東幼稚園 谷口 朋子	治田東こども園 木村 恭子	治田保育園 高野 萌香	Aさんとの出会いを通して自分自身を問い直すきっかけとなりました。子ども達が自己表現し、友だちとのつながりを喜び合える人権保育実践について一緒に考えます。
14	4年1組 教室	(4)－③	子どもの姿を鏡にして自分に問い続ける教員を目指して	大宝小学校 原 小雪	学校教育課 稗田 将	治田小学校 黒川 俊文	大宝小学校 中島 日菜	誰もが学びに向かう環境づくりの中で、子どもの姿を鏡にして自分の指導を振り返ることが、よりよい指導につながると考え、取り組みました。観察と記録を行い、課題を「つかみ」、原因を「さぐり」、解決方法を「見つけ」、「決めて実践する」ことで、変わっていった児童のようすが自分が学び感じたことを伝えたいと思います。
15	3年3組 教室	(4)－②	わたしが部落差別問題学習とどのように向き合ってきたか	大宝東小学校 梅原 悠貴	治田小学校 五藤 章	人権擁護課 雪竹 義和	大宝東小学校 山地 大介	昨年度、5年生の部落差別問題学習を進める中で、自分自身も子どもたちと一緒に差別をなくすために何ができるかを学び、考えました。その中で葛藤や考えの変化、今後どのように学び、行動していきたいかを発表します。
16	3年1組 教室	(4)－③	子ども同士がつながりを深める学級づくり	大宝西小学校 岡田 佳奈美	大宝小学校 平沢 佐知子	治田西小学校 野瀬 めぐみ	大宝西小学校 西井 智子	お互いを認め合い、子ども同士がつながりを深める学級づくりを目指して取組を行いました。取組を通して、友だちに思いを伝えることが苦手であったA児の姿容と学級の姿容を中心に提案します。
17	4年3組 教室	(4)－③	学級における児童の居場所づくり ～さまざまな困り感を抱えた児童との関わりを通して～	治田西小学校 川島 寿基	大宝西小学校 勝部 由紀子	大宝東小学校 安本 昌彦	治田西小学校 佐藤 純一郎	昨年度に担任した学級には、集団生活が苦手な児童、人とのコミュニケーションが苦手な児童、学校に行きづらさを感じる児童がいました。すべての児童にとってここが自分の居場所なんだと感じられる学級づくりのために取り組んだことと、その課題について考えます。
18	5年3組 教室	(3)	差別解消に向けたつながりをつくる ～自主活動学級を通して～	栗東西中学校 矢嶋 亮太	栗東中学校 太田 洋司	少年センター 岸田 修	栗東西中学校 橋爪 鈴音	生活学習支援加配として1年間地域とかがわってきました。隣保館と協力し、「地域内でのつながりをつくる」ことを目標に、自主活動学級の運営を行ってきました。その中で見えてきた子どもたちの葛藤や迷い、成長を報告します。

研究課題：
(1) 道路保障（校園所・企業・地域との役割）
(2) 人権尊重のまちづくり
(3) 人権問題に関する学習・啓発（家庭・職場・地域・子ども会・社会教育関係団体等・校園所での実践）
(4) 人権確立をめざす保育・教育の創造

(1) 部落差別問題の今日的課題と解決において
(2) ともに生きるまちづくり
(3) 部落差別問題の今日的課題と解決において
(4) ともに生きる校園所づくり

(1) ともに生きるまちづくり
(2) 保育・授業の創造
(3) 子どもの人権・仲間づくり